



子どもの6分の1 6人に1人が貧困状態に陥っているといわれる現在の日本。この連載では、その6分の1の子どもたちの現状と、この地域で「子ども貧困」の解決に取り組む団体の活動をご紹介します。

当事者が当事者を支える募金活動

あしなが学生募金事務局は、民間の奨学金団体あしなが育英会から奨学金を借りている大学生が中心に活動している学生団体です。毎年春と秋に4日間ずつ全国約180カ所の駅と街頭で募金活動を行っています。募金支援対象はあしなが育英会から奨学金を借りている奨学生。親を病気・災害・自殺でなくしてしまった家庭の子どもたちや、親が重度後遺障害によって満足に働くことのできない家庭の子どもたちです。私たちが集めた募金はすべてあしなが育英会に寄付し、全国のあしなが育英会の奨学生に無利子の奨学金として送金されます。貧困家庭の現状を少しでも世間の方に知っていただくために、街頭で当事者である私たちが声を張り上げています。

国内遺児の現状

遺児は、日本には40万人、世界中には2億人いると推計されています。かけがえのない親を亡くし、孤立している遺児たちは、経済的にも精神的にも、ますます追い詰められています。

あしなが育英会の高校奨学生の保護者の手取り月収は、平均して13万8千円不足です。「教育費不足」を抱える割合は67%で、教育費を賄う方法として「教育費以外の削減」が48%、「預貯金の取り崩し」が41%、それに次いで多いのが「子どものアルバイト」で25%にのぼります。

高校卒業後の進路希望は、「大学・短大進学」が39%。全国の大学・短大進学率は55%(文部科学省調査)ですが、あしなが高校奨学生の進学希望の割合は16ポイントも低い状況です。就職希望者の就職理由は、「経済的理由で進学断念」が53%で、2年前の前回調査より13ポイントも急増しました(2013年あしなが育英会調査)。全国の高校生の年間教育費は、公立高校で38万6千円(月3万2千円)、私立高校で96万8千円(月8万1千円)にもなります(2012年文部科学省調査)。公立高校での授業料無償化や、私立高校での授業料減額があっても教育費負担は深刻です。

46年間の街頭募金

今年であしなが学生募金は92回目となります。あしなが運動の歴史は1970年に秋田大学祭で学生が始めたことがきっかけでした。当時は交通遺児に対しての奨学金を街頭で募っていました。それが時代の



街頭募金の様子

流れとともに震災遺児、病気遺児、重度後遺障害の家庭の子どもたちへと支援対象が広がっていききました(今は交通遺児は支援対象となっていません)。

あしなが学生募金事務局の支援対象は基本的には上記の子どもたちですが、時によって支援対象が変わることもあります。2011年に起きた東日本大震災では、被災者の子どもたちに特別一時給付金として一世帯に200万円を給付しました。また被災した子どもたちの心のケアをするための施設「東北レインボーハウス」の建設費を募りました。レインボーハウスは東北の陸前高田、石巻、仙台と3つあります。このように、その時々に応じて支援対象が変わることもありますが、対象は貧困の子どもたちが中心となっています。

当事者のことは当事者が一番知っている

当たり前ですが、遺児の気持ち、重度後遺障害の家庭の子どもたちの気持ちは、当事者になってみないと分かりません。全国の各ブロック、そして東海ブロックのメンバーのほとんどが当事者です。私もその1人で、

父親を幼い時にガンで亡くしたガン遺児です。母親は大腸がなく、そして家事などもしなければいけないので、非正規雇用です。月収約8万円と父親の遺族年金、祖父母の支援で何とか男3人兄弟を育ててくれました。幼い時は他の子と同じように玩具などは買ってはもらえませんでした。アフリカなどの貧困地域で暮らしている子どもたちよりは生活することができていますが、幼い子どもたちにとって玩具はコミュニケーションに必要なツールの1つだと私は思います。そのツールがないだけで、グループの輪に入ることができずに孤立してしまう子どもたちも少なくはありません。私の場合、友達は理解がある人だったので孤立することはありませんでした。中学まで自転車を買うことができませんでしたが、いつも友達と遊ぶ時は走ってついて行っていました。高校に進学する時は、金銭面が厳しかったので進学してもいいのかと不安になりましたが、あしなが育英会の奨学金を受けることによって、部活動を行いながら高校に通うことができました。そして大学でも日本学生支援機構とあしなが育英会の両方から貸与を受けて、なんとか学生生活を過ごしています。

しかし、私よりも過酷なケースは多くあり、学費が払えない、兄弟のためにという理由で進学を断念してしまう子がいます。その子たちを1人でも減らせるように、遺児の現状、障がい家庭の現状を街頭募金で伝える必要があります。当事者が当事者を支えるために、後輩遺児、障がい家庭の子どもたちが少しでも楽に生活できるようにと街頭募金をしています。

貧困は仕方ない

街頭募金をしていると、多くの方に声をかけられることがあります。それは応援であったり、非難であったりとさまざまです。ある年配の方が「大学に行くことは贅沢なこと」と言っていました。それは間違っていないと思いますが、正解とも言えません。当の

本人が大学に行きたくないというのであればいいのですが、行きたい子がいけないというのはおかしいと思います。現に何の資格も持たない中卒、高卒の子と大学を卒業した子の生涯年収は雲泥の差です。大学を卒業するのは安定した企業に入るための入場券のように思っています。貧困は誰のせいでもありません。貧困になったら、可能性が狭まるのも仕方ないという風潮が、今でもあるのはおかしいのではないかと思います。

その考えを少しでも変えるために東海ブロックでは東海地域11拠点(名古屋、栄、岐阜、四日市など)の駅や街頭で伝えています。近年、東海地域でも全国でも募金額が減ってきています。以前は年3億円だった寄付も2億円を下回るという結果になってきています。少しでも遺児・障がい家庭の現状を伝えるためにも協力する学生が必要です。子どもの貧困を打破するために一緒に活動してくれる方を募集しています。どうぞよろしくお願いいたします。



東海ブロックのメンバーたち

INFORMATION

あしなが学生募金

ぜひホームページをご覧ください

HP: <http://www.ashinaga-gakuseibokin.org/>

東海ブロックE-mail: toukaiashinaga@gmail.com